

細胞・再生医療センター

● スタッフ（2022年10月1日現在）

センター長 福田 尚司（心臓血管外科教授）
 副センター長 近津 大地（歯科口腔外科・矯正歯科主任教授）
 原田 和俊（皮膚科主任教授）
 所属科・部門 院内10科1研究所部門、倫理・安全部門、法人事務局企画部統合管理室、薬剤部、外部2科
 （詳細はホームページ参照）

医師数 20名

● 当センターの特徴

日本の再生医療は、2014年に世界で初めてiPS細胞を用いた移植手術が行われて以来、急速に進歩し、様々な分野で臨床応用されつつあります。これまで有効な治療法のなかった疾患に対する、治療への可能性が大きく期待されています。

当センターは、東京医科大学病院における再生医療を、法令遵守の下、安全で迅速に、効率的に臨床現場に提供することを目的として設立されました。当センターの施設である、「細胞調製施設」設立に当たっては、多くの方々から並々ならぬご協力をいただきました。この施設は、2020年3月、細胞加工施設として正式に国の承認を得ることができました。

また、当センターの運営は、科と科の垣根を無くし、横断的に再生医療を推進するため、参加希望のある全ての科あるいは部署で構成する委員会が中心となって行います。

具体的な再生医療の内容は、東京医科大学病院ホームページ、「細胞・再生医療センター」をご覧ください。

<https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/saisei/index.html>

● 活動内容

- ◆ 当院で実施される再生医療等に関する、治療および臨床研究に関する情報の一元化
- ◆ 細胞調製施設の管理・運営
- ◆ 細胞培養等を通して、再生医療治療および臨床研究の実施・協力
- ◆ 再生医療等製品に関する治験

● 当院における再生医療の臨床実績

- ◆ 自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による末梢動脈疾患に対する完全自家血管新生療法（先進医療B）（心臓血管外科）
- ◆ 結膜悪性腫瘍における、ヒト羊膜移植を利用した眼表面の再生・再建（眼科）
- ◆ 患者皮膚表皮細胞を採取し、それを細胞単位に分離した懸濁液を作成、それを熱傷創に投与する治療（形成外科）

- ◆ 自家皮膚から色素幹細胞を維持した培養表皮シートを作成し、白斑部に移植する治療（形成外科・皮膚科）
- ◆ 培養された線維芽細胞を含有したハイドロゲルを植皮に用いる採皮部に貼付する治療（形成外科）
- ◆ 患者血液よりCD34陽性細胞を純化して、重症虚血肢に筋肉内投与する治療（形成外科・血液内科・循環器内科）
- ◆ 歯髄幹細胞を用いた骨・軟骨再生療法（歯科口腔外科）
- ◆ 再生医療等製品（保険適用）：遺伝子治療用製品（ヒト肝細胞増殖因子プラスミドベクター）（心臓血管外科）
- ◆ ・スポーツ傷害（関節）及び変形性膝関節症を対象とした自己多血小板血漿注入療法（第2種）（整形外科）
- ◆ ・スポーツ傷害（筋・腱・靭帯）を対象とした自己多血小板血漿注入療法（第3種）（整形外科）
- ◆ ヒト毛球部毛根鞘細胞を用いた毛髪再生の臨床研究（皮膚科）